

はじめに

情報メディアセンター長 岩田 員典

昨年度は新型コロナウイルスの影響で皆様が多忙なこともあり発刊できませんでしたが、本年度は愛知大学情報メディアセンター紀要COM46号を無事発刊できました。まだまだ新型コロナウイルスの状況が予断を許さない状況であり、お忙しい中投稿していただいた執筆者の方々をはじめ、編集委員や発刊に関わっていただいた方々にお礼を申し上げます。今号も4件の投稿を頂きました。多くの方々にご愛読いただければ幸いです。

さて、前述のように新型コロナウイルスは、2019年末に発見され、2020年1月に日本で初感染が確認されてから瞬く間に感染が広まり、いまだに収束の兆しが見えませんが¹。そのような状況において、本学でも2020年度授業開始が5月にずれ込み、さらにはオンラインでの授業となりました。すべてをオンラインで実施するというのは、学生だけでなく教職員も未経験の状況でしたが、他大学と比べても比較的トラブルが少なくオンライン授業を開始・運営できたのは、関係各所の教職員の方々、学生の皆さん、保護者の方々の御協力と御理解があったからに他なりません。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

手探りの中で始まったオンライン授業だったため、さまざまな苦労や表には出てきていない小さなトラブルは多数あったと思います。私の場合も、オンデマンド授業用の資料の準備には多大な時間を要し、春学期は連日朝から晩まで作成をしてなんとか間に合うという自転車操業状態でした²。また、実習科目においては、普段は学生の進捗度合いを見ながらこちらから声をかけてフォローをしていたのですが、それができなかったため最終課題の得点が全体的に低いという問題も生じました。ただし、どの科目においても課題の提出率は高く、単位の取得率は高かったように思われます。

一方、学生にオンライン授業について尋ねてみると、教員側と同様に賛否両論だと感じました。特にオンデマンド型については、自分のペースで好きなときに学習でき、理解できなかったところは再学習できるという点がよかったようです。ただし、自分でスケジューリングするのが難しく課題をため込み大変だったという声もありました。

¹ 本巻頭言執筆中の2021年12月上旬において、日本での流行はかなり押さえ込めているが、感染力の高いオミクロン株の登場により再流行の危険性が高まっている。

² 秋学期の分は夏休みに半分ぐらいは作成できていたのでなんとかあった。

このようにオンライン授業についてはさまざまな意見が見受けられますが、新型コロナウイルスの流行を機に強制的に導入に踏み切られたのは、大学としては変革の機会だったのかもしれませんが。社会全体を見てもこの機にオンライン化されたものは多く、オンラインミーティングやオンラインで業務の実施などもますます増えていくと言えます。そのため、大学時代にこれらのシステムに触れたことは今後の糧になると思います。

今号への投稿はいずれもそのようなオンライン授業に関わりの深いものとなっております。是非ご一読頂ければと思います。

最後になりましたが、2020年9月30日を以て情報メディアセンター所長の第1期目の任期を皆様のおかげで無事終えることができました。そして、新型コロナウイルスの影響下で体制を変えるのは望ましくないということで、力不足ながら引き続き情報メディアセンター所長を務めさせていただくことになりました。今後も事務スタッフやICT委員の皆さんの御協力を得ながら努めて参りたいと思っております。よろしくお願いいたします。